

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 4月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1090900034
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホームふゆざくら
所在地	群馬県藤岡市浄法寺1814-1 (電話) 0274-20-3443
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年2月19日

【情報提供票より】(22年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 9 人 常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋立て 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	--------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	杉山クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員は理念に基づいたケアの実践に向けて取り組んでいる。「...その人が持っている力を発揮し、その人らしく生活を送るために支援していくこと」の実践として、残存能力の保持に努めている。残存能力の引き出し方、見極め方が難しいと感じながらも、出来ることは見守り、生活の中にリハビリを取り入れる等の工夫が見られる。また、家庭での生活をホームでも実践してもらうことを職員全員で共有し、利用者の意思を尊重しながら、日常生活の様々な場面に取り入れている。共用空間から食堂が良く見え、利用者が出入りし易く、また、料理作りの音や香り、作業場が家庭での生活を継続する一場面として機能しているように見受けられた。運営推進会議の参加者は市職員・区長・老人クラブ・地区班長等と家族が平均3~4名、多い時には8名参加していることから、ホームと地域住民との交流が進められていることが判断できた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目であった市町村との連携については、ホームの空き情報を市役所のホームページに掲載等で連携に努めている。職員を育てる取り組みでは、実践者研修等には参加しているが、その他の研修にも今後参加していきたいと検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員に項目を振り分け記入してもらい、管理者がまとめ記載を行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催に努力している。年間6回開催されている。事業所から近況・行事報告や評価結果等の報告を行い、出席者から意見等を受けて話し合いを行っている。運営推進会議の当日にラーメン店に来てもらったり、八木節の会に来てもらったりしながら、家族や地域住民に参加してもらえる工夫をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からはテレビやソファの配置等の要望が出ている。「ふゆざくら通信」を発行し、家族等来訪時や運営推進会議に出席した際には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、家族には報告されてうれしいことを意識的に話したり、意見や要望等を聞くように努めている。出された意見等は職員会議で検討し、運営に反映させている。玄関に「目安箱」を設置してある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しているが、回覧板はまだ回っていない。運営推進会議等で地域の情報を聞いている。ホームの納涼祭に近隣の方を招待し、歌を歌ってもらったり親交を深めている。小学校の運動会やどんど焼きに招待され、利用者と参加している等、地域住民との交流が図られている。

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念と共に職員で作上げた事業所がめざす地域密着型サービスのあり方を端的に示した、独自の理念が掲示されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有するため、職員会議等でケアの方向性を確認し、生活の場において残存能力の維持に努めることを意識して理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しているが、回覧板はまだ回っていない。運営推進会議等で地域の情報を聞いている。ホームの納涼祭に近隣の方を招待し、歌を歌ってもらったり親交を深めている。小学校の運動会やどんど焼き、春・秋のお祭りに招待され、利用者と参加している等で地域住民との交流が図られている。		
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、運営推進会議で報告し、職員会議等で話し合い、具体的な改善に向け取り組んでいる。自己評価については、職員に振り分け全員で確認し、管理者が作成した。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催に努力している。年間6回開催されている。事業所から近況・行事報告や評価結果等の報告を行い、出席者から意見等を受けて話し合いを行っている。運営推進会議の当日にラーメン店に来てもらったり、八木節の会に来てもらったりしながら、家族や地域住民に参加してもらえ工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	基本的に法人が市の窓口との交渉等にあっている。介護相談員の来訪がある。市のホームページに空き情報を提供する等の取り組みを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、「ふゆざくら便り」を発行し、家族等に配布している。家族等の来訪時には、利用者の生活状況や健康状態、金銭収支、食事会計画等について報告している。身体状況の変化については、随時電話でも報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時や運営推進会議に家族等が話しやすい雰囲気になるように留意し、意見や要望等を聞くように努めている。ソファやテレビの位置の変更案が出て、皆で楽しめるようにテレビの位置を変えた。出された意見等は職員会議で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの管理者・職員による支援を受けられるように、管理者の入替えは1年間は無い。パート1名の交代があった。入職者には自分が自宅で介護する場合どうするのか等を管理者が指導し、管理者・職員が付いて日勤から3～4日働いてもらい、夜勤を1～2回付いて管理者が見極め、独り立ちしてもらっている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎研修、実践者研修に参加している。	○	管理者とパートを含めた職員が技術に応じた法人内外の研修の機会が持てるような取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。管理者は地域のグループホームとの交流がある。ここ1年間は他ホームとの交流は行っていないので、行いたいと管理者は考えている。西毛地区ブロック研修には参加して、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	老健からの入所があり、入居希望時に管理者とケアマネジャーが面会に行った。在宅の場合は本人・家族等に見学してもらい、ホームの雰囲気や様子を見てもらい、判断している。本人の納得がない場合は家族と相談して、本人と面会し馴染んでもらい、利用につながるよう支援している。入居後も、不安定な場合は、家族等の協力を得ながら、徐々に環境に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意な分野で力を発揮してもらえよう場面設定をし、編み物を職員が教えてもらいながら、昔の話をしてもらい時間を共有している。おやつ作りや散歩時等で利用者から教えてもらうことも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向はケアマネジャーと職員で聞き、家族には来訪時や電話で聞いて、月に1度のカンファレンスで職員で話し合い、本人本位を優先するよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にはカンファレンスへの参加を呼びかけているが、今のところ参加は無い。要望や意向の確認を行い、介護計画に反映させるようにしている。介護計画の作成時に本人や家族等から了解をもらっている。それぞれの意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、モニタリングを行い、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、カンファレンスで検討し、3ヶ月毎に定期的な見直しと、状態の変化に応じた随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の状況や要望に応じて、協力医による緊急時通院支援や日用品や衣料品の買物支援、訪問歯科等柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人・家族等にかかりつけ医の確認を行っている。協力医への変更等、意向の確認を行っている。協力医と連携を図り、緊急時の受診が受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院の場合は1ヶ月で退所となる。重要事項説明書の中に指針が謳われている。入居時に本人・家族等に説明し同意を得ている。ホームとしては家族からの希望もあり、終末期の支援を行ないたいと考え、職員にも共有されている。終末期に向けた職員研修も法人研修として開催される予定である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレでの排泄支援時等ではトイレのドアを閉めるように職員に話している。言葉かけのとき難聴の方の場合に声かけの口調が強くなったり大きな声になる時があることを管理者は感じている。呼称は「～さん」と呼んでいる。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努め、職員と法人は入職時に誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食・昼食の時間は決められてはいるが、早めに食事を済ませてしまう人でも、30分間は座ってもらい会話をしてもらっている。食事を拒否する人には代替品を提供している。本人の意思確認を行ってからケアに当たることを基本としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて、職員と一緒に食材の買物に出かけ、食事のメニューやおやつは利用者の希望で変更して提供する等、臨機応変な対応が出来る。職員も各テーブルに同席し介助や会話をする等、楽しく食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は週に4回、13時半からの設定であるが、利用者の希望があれば、毎日入浴できる体制になっている。入浴前のバイタル測定時の希望や入浴設定日以外の日でも本人の希望により入浴ができる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握し、花の水やり・下膳・お盆拭き・テーブル拭き・カーテン開け・モップ清掃等の役割の支援をしている。編み物・ちぎり絵・昔の話・外食・ドライブ・お花見・テレビ鑑賞、地域の祭りへの参加・月1回の外出等で楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良ければ、ベランダでの外気浴や散歩したり、食材の買物等に出かけ、日常的に気分転換が図れるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、見守りを徹底しながら安全面に配慮し、日中玄関に鍵をかけずに、外に出たい利用者へは職員が同行し気晴らしの支援を行ない、自由な暮らしを確保している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	21年6月には夜間想定通報・避難訓練を行い、21年10月には昼想定自衛総合訓練を行い、年2回利用者参加で実施されている。地域住民の参加を計画していたが、中止となったため、今後も運営推進会議で働きかけていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事と水分の摂取状況を毎回記録し、職員は情報を共有しながら支援している。水分の摂取量の目安を1500CCと設定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く、開放感がある。ホールには畳の場所があり、こたつも用意されている。壁には行事の写真、理念が貼られ、大きな観葉植物が置かれている。こたつ、ソファ、いす等が設置してあり、一人ひとりの自由な居場所が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、箆笥・整理ダンス・仏壇・家族の写真・趣味の毛糸・作品等、一人ひとり使い慣れたものや好みのもものが持ち込まれ、本人が安心して過ごせるような配慮がなされている。		